資料－４

令和8年度
雄物川水系渇水情報連絡会

（玉川ダム）

【玉川ダム管理所】
① 令和7－8年　積雪状況
② 年間貯水位曲線・月別降水量
③ 玉川水系ダム群連携運用
④ 令和7年　下流補給実績

令和8年6月15日

玉川ダム管理所





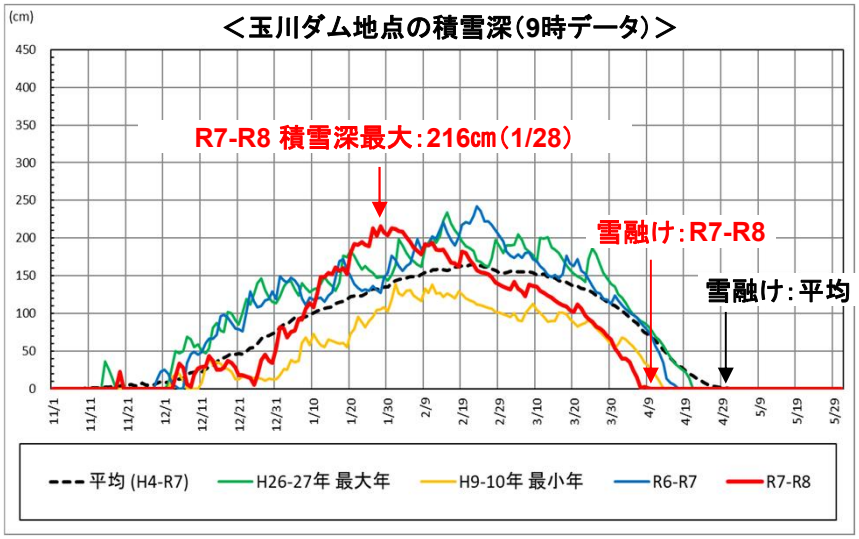




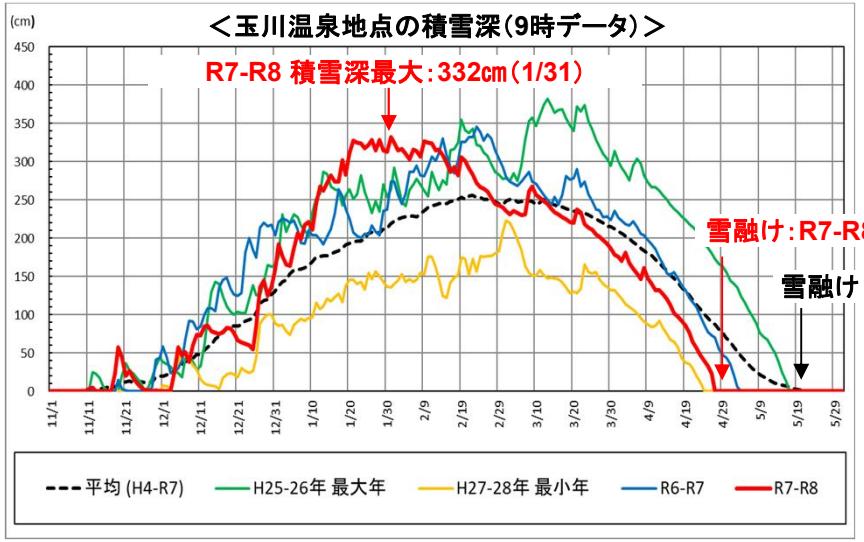
① 令和7－8年　積雪状況

- 玉川ダム流域の積雪観測2地点（玉川ダム、玉川温泉）における、R7－8年の積雪状況を以下に示す。
- 積雪深（9時データ）では、2地点とも平均（H4－R7）より前半は多く、後半は少ない状況であった。
- 累加降雪量でも、2地点とも平均（H4－R7）よりやや少ない状況であった。
- 2地点とも、平均より早い雪融けとなった。

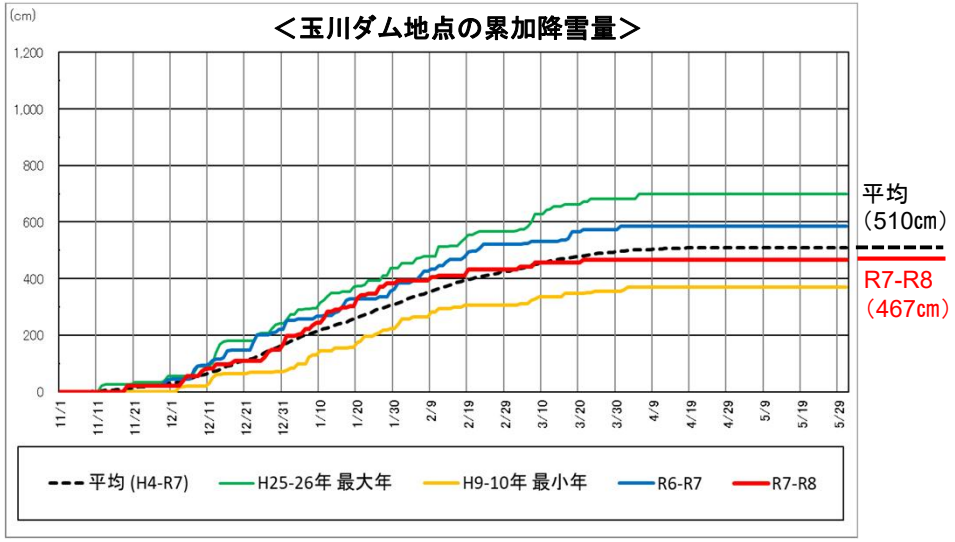
＜玉川ダム地点の積雪深（9時データ）＞



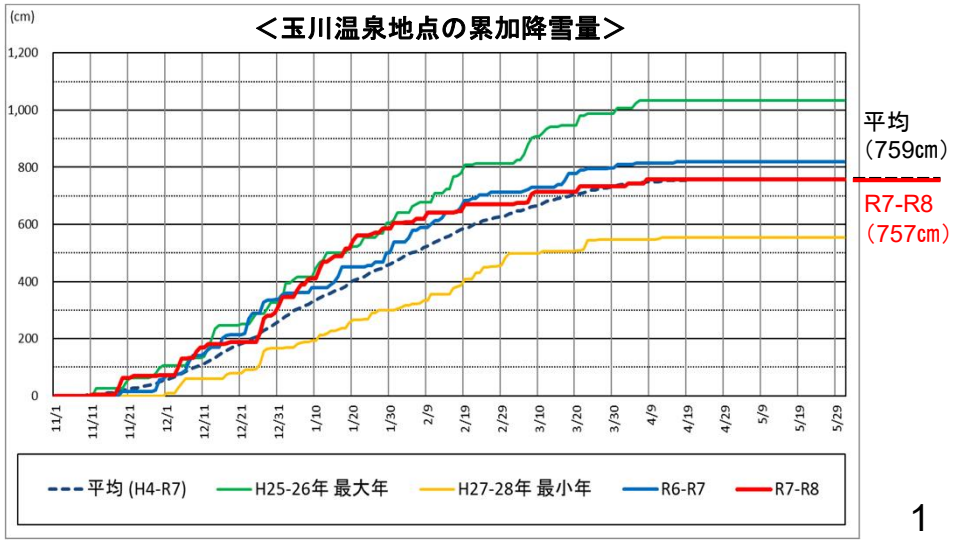
＜玉川温泉地点の積雪深（9時データ）＞



＜玉川ダム地点の累加降雪量＞

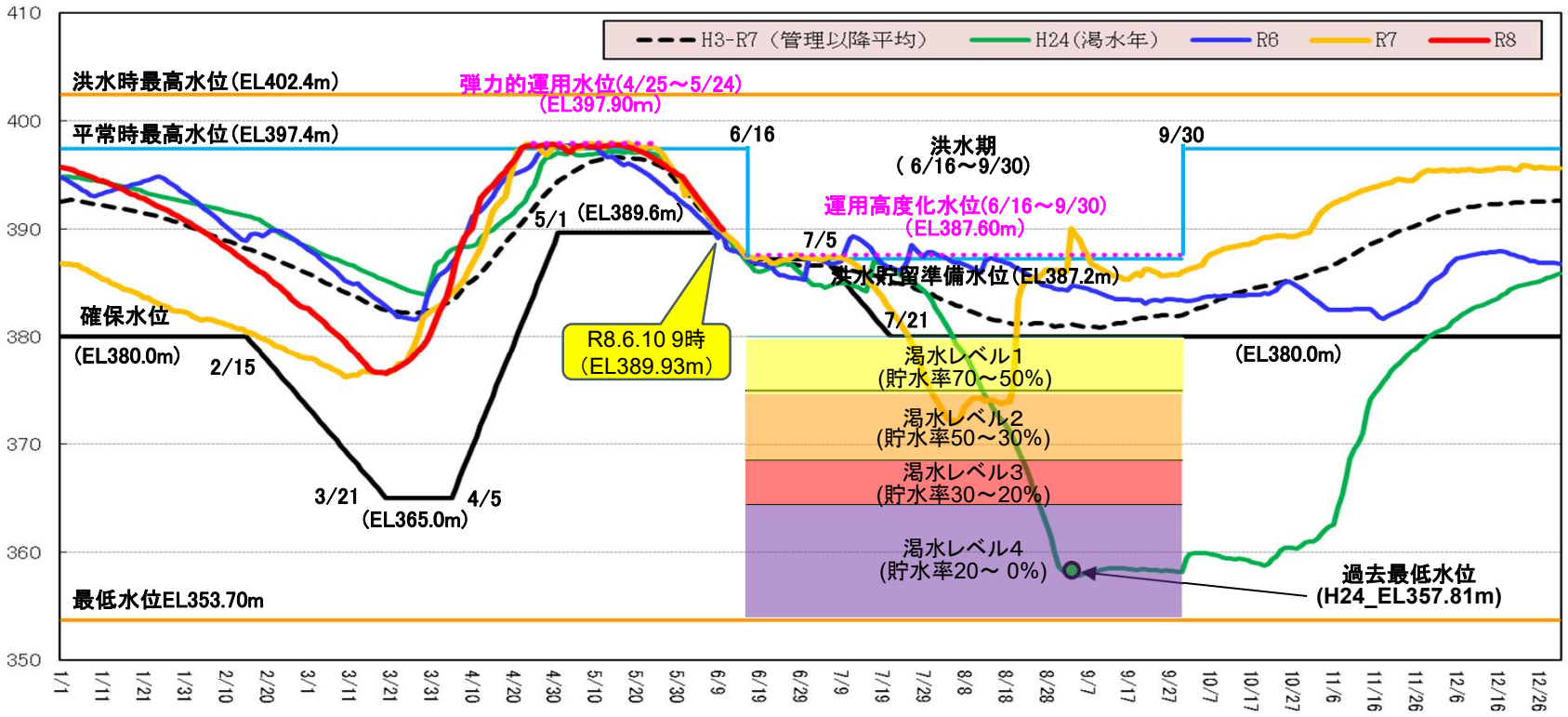


＜玉川温泉地点の累加降雪量＞

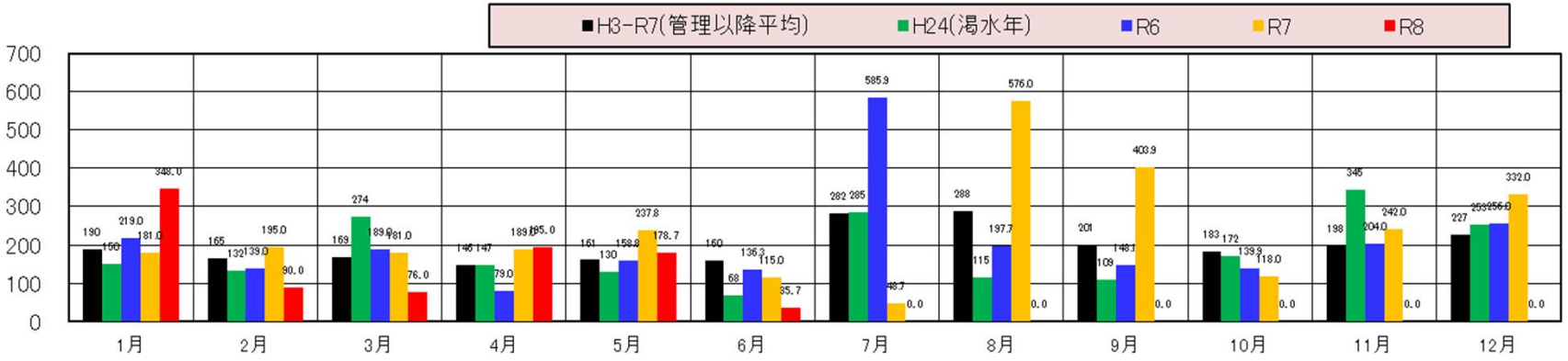


② 年間貯水位曲線・月別降水量

＜玉川ダム年間貯水位曲線＞



＜月別降水量（ダム流域平均）＞



③ 玉川水系ダム群連携運用

出水時及び渇水時等において、ダム下流域のダム群・発電施設との連携運用の判断を行い関係機関と調整しています。これらの下流の利水監視は、雄物川本川の秋田市椿川地点（玉川ダムから120km）まで及びます。

玉川ダムでは、下流の利水者（特に電気事業者）との利水調整が多く、渇水時には、田沢湖との連携運用が実施されています。

流水の正常な機能の維持
- 玉川頭首工地点：6m³/s
- 長野地点：11.0m³/s
- 椿川地点：78.6m³/s

の流量確保

上水道
- 1日最大供給：113,900m³

（秋田市に対して）

工業用水道
- 1日最大供給：452,500m³

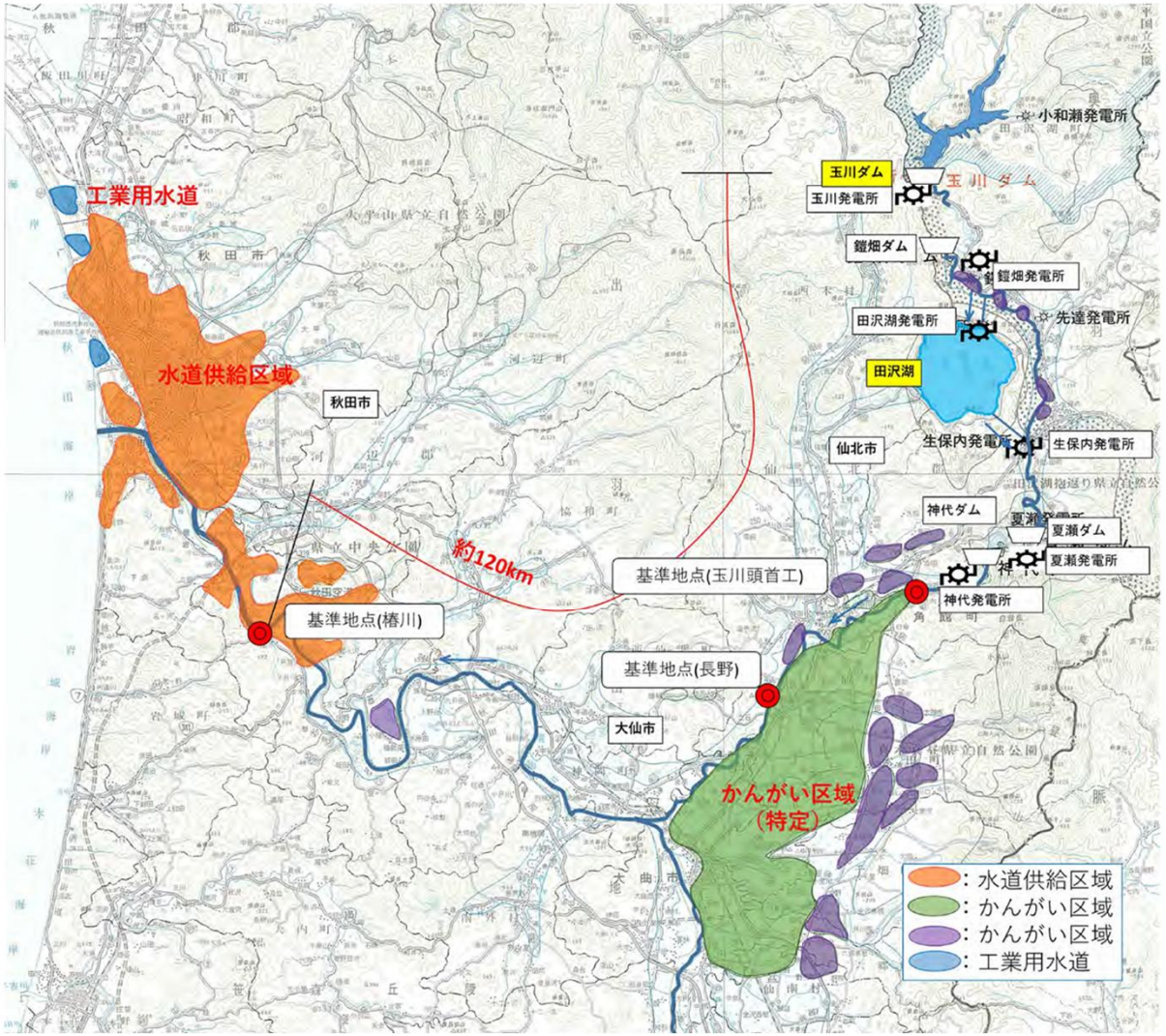
（秋田県に対して）

かんがい用水（特定）
- 約10,200haに対する補給

（雄物川及び玉川沿川の農地に対して）

発電用水
- 常時10.93m3/s
  最大40.0m3/s
- 最大出力23,600kW

（秋田県玉川発電所において）



③ 玉川水系ダム群連携運用

■雄物川水系渇水情報連絡会　渇水対応タイムライン　1／2

玉川ダム

EL=380.0m

EL=375.0m

EL=368.5m

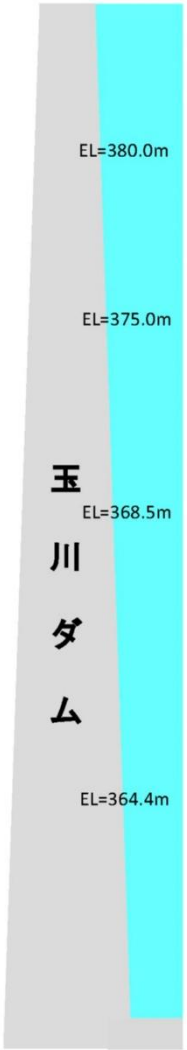
EL=364.4m

渇水のレベル	玉川ダム貯水率	玉川ダムと田沢湖の補給比率	各機関の取組			
			渇水情報連絡会	玉川ダム群	河川管理者	秋田県・仙北市
通常時	貯水率 70%以上 貯水位 EL. 380. 0m以上	通常時の運用ルールによる補給比率	情報収集・情報共有 ◆ 定例会の開催 ◆ 河川管理者、利水者、関係機関等の情報共有	適正な施設運用と情報発信 ◆ 雨量、貯水状況の監視 ◆ ダム等の水管理情報の発信 椿川地点等で流況悪化の場合、利水補給開始	適正な河川管理 ◆ 雨量、貯水状況の監視 ◆ 適正な利水補給、河川環境の確認	住民への水資源の啓発 ◆ 水資源や節水に関する広報
渇水レベル1（渇水注意）	貯水率 70%～50% 程度 貯水位 EL. 380. 0m未満	玉川ダム　80% 田沢湖　20% 玉川ダム／田沢湖	情報収集・情報共有 ◆ 臨時会の開催 ◆ 状況の把握	適正な施設運用と情報発信 ◆ 補給持続 ◆ 雨量、貯水状況の監視（平年との比較等） ◆ ダム等の水管理情報の発信 渇水注意レベルでの監視 ◆ 地すべり監視	適正な河川管理 ◆ 雨量、河川状況の監視（平年との比較等） ◆ 適正な利水補給、河川環境の確認	住民への水資源の啓発 ◆ 住民への水資源や節水の啓発
渇水レベル2（渇水警戒）	貯水率 50%～30% 程度 貯水位 EL. 375. 0m未満	玉川ダム　52% 田沢湖　48% 玉川ダム／田沢湖	情報共有・連携運用等の確認 ◆ 臨時会の開催 ◆ 玉川ダム及び田沢湖の運用管理に関する調整会議等の協議内容の確認 ◆ 田沢湖利用水深の確認 ◆ 補給比率変更 ◆ 節水等に対する備え	渇水警戒レベルでの施設運用 ◆ 補給比率変更 ◆ 雨量、貯水状況の監視 渇水警戒レベルでの監視 ◆ 地すべり監視強化 ◆ ｐＨ低下監視強化	渇水警戒レベルでの河川管理 ◆ 雨量、河川状況の監視 ◆ 取水量の把握 渇水警戒レベルでの監視 ◆ 節水の可能性等呼びかけ ◆ 水環境の変化確認	田沢湖の影響確認 ◆ 田沢湖の水位監視 ◆ 田沢湖のｐＨ監視 ◆ 水環境の変化確認 住民への情報発信 ◆ 住民への広報 ◆ 節水の可能性等呼びかけ
渇水レベル3（異常渇水①）	貯水率 30%～20% 程度 貯水位 EL. 368. 5m未満	取水量２０%節水 玉川ダム　30% 田沢湖　70% 玉川ダム／田沢湖	連携運用、節水量等の調整 ◆ 臨時会の開催 ◆ 玉川ダム及び田沢湖の運用管理に関する調整会議等の協議内容の確認 ◆ 補給比率変更 ◆ 水利用者への状況説明の推進 ◆ 20%取水量節水協力要請 ◆ 田沢湖等の水利用者の使用時期を踏まえた調整 ◆ 水融通の調整	異常渇水レベルでの施設運用 ◆ 補給比率変更 ◆ 雨量、貯水状況の監視 異常渇水レベルでの監視 ◆ 地すべり監視強化 ◆ ｐＨ低下監視強化	異常渇水レベルでの河川管理 ◆ 雨量、河川状況の監視 ◆ 取水量の把握 異常渇水レベルでの監視 ◆ 節水の呼びかけ ◆ 水環境の変化確認 ◆ 河川巡視強化	田沢湖の影響確認 ◆ 田沢湖の水位監視 ◆ 田沢湖のｐＨ監視 ◆ 水環境の変化確認 渇水対策の推進 ◆ 住民への広報 ◆ 節水の呼びかけ ◆ 渇水体制
渇水レベル4（異常渇水②）	貯水率 20%以下 貯水位 EL. 364. 4m未満	取水量 ２０%節水 ＋ 更なる対応 玉川ダム　30% 田沢湖　70% 玉川ダム／田沢湖	連携運用、節水量等の調整 ◆ 臨時会の開催 ◆ 玉川ダム及び田沢湖の運用管理に関する調整会議等の協議内容の確認 ◆ 給水車の準備、応援給水の検討や依頼 ◆ 更なる渇水対策措置（更なる連携運用の調整、椿川地点の補給量の調整等） ◆ その他非常時対応	異常渇水レベルでの施設運用 ◆ 補給継続 ◆ 貯水位低下予測 ◆ 雨量、貯水状況の監視 異常渇水レベルでの監視 ◆ 地すべり監視強化 ◆ ｐＨ低下、濁水発生の監視強化	異常渇水レベルでの河川管理 ◆ 雨量、河川状況の監視 ◆ 更なる渇水対策 異常渇水レベルでの監視 ◆ 節水の呼びかけ ◆ 水環境の変化確認 ◆ 河川巡視強化	田沢湖の影響確認 ◆ 田沢湖の水位監視 ◆ 田沢湖のｐＨ監視 ◆ 田沢湖湖岸監視 渇水対策の強化 ◆ 住民や観光客への広報 ◆ 更なる渇水対策強化 ◆ 遊覧船運航確保のための調整

※　本タイムラインは渇水時の行動の目安とするため、過去の渇水対応を参考に作成したものであり、実際の対応は気象や水利用の状況により変わることがあります。

③ 玉川水系ダム群連携運用

■雄物川水系渇水情報連絡会　渇水対応タイムライン　2／2



渇水のレベル	玉川ダム貯水率	玉川ダムと田沢湖の補給比率	各機関の取組			
			農業用水（土地改良区等）	都市用水（各水道・工業用水道）	発電用水（秋田県、東北電力等）	住民・事業者
通常時	貯水率 70%以上 貯水位 EL. 380. 0m以上	通常時の運用ルールによる補給比率	適正な施設管理と運用 ◆ 取水・配水施設の整備・点検 ◆ ダムの貯水率や河川流量の情報確認	適正な施設運用と情報発信 ◆ 取水・送配水施設の整備・点検 ◆ ダムの貯水率や河川流量の情報確認	適正な施設管理と運用 ◆ 発電に係る設備の整備・点検 ◆ ダム等の貯水率の情報発信や確認	平時からの節水 ◆ 節水への関心を持つ ◆ 一般家庭や事業所での節水
渇水レベル1（渇水注意）	貯水率 70%～50%程度 貯水位 EL. 380. 0m未満	玉川ダム 80% 田沢湖 20% 玉川ダム／田沢湖	事前行動・情報収集 ◆ 取水・配水施設の整備・点検 ◆ ダムの貯水率や河川流量の情報確認 ◆ 必要により番水取水の実施 ◆ 用水路間の流量調整等の流水管理	事前行動・情報収集 ◆ 取水・送配水施設の整備・点検 ◆ ダムの貯水率や河川流量の情報確認 ◆ 使用者への節水啓発	事前行動・情報収集 ◆ 発電に係る設備の整備・点検 ◆ ダム等の貯水率の情報発信や確認	節水・自治体からの情報確認 ◆ 一般家庭や事業所での節水の推進
渇水レベル2（渇水警戒）	貯水率 50%～30%程度 貯水位 EL. 375. 0m未満	玉川ダム 52% 田沢湖 48% 玉川ダム／田沢湖	渇水警戒レベルでの節水・管理 ◆ 取水・配水施設の整備・点検 ◆ ダムの貯水率や河川流量の情報確認 ◆ 必要により番水取水の実施 ◆ 用水路間の流量調整等の流水管理	渇水警戒レベルでの施設運用 ◆ 取水・送配水施設の整備・点検 ◆ ダムの貯水率や河川流量の情報確認 ◆ 渇水対策の検討開始 ◆ 使用者への節水啓発	渇水警戒レベルでの施設運用 ◆ 発電に係る設備の整備・点検 ◆ ダム等の貯水率の情報発信や確認 ◆ 渇水対策の検討開始	節水・自治体からの情報確認 ◆ 一般家庭や事業所での節水の推進 ◆ 自治体から発信された広報の確認及び内容の実施
渇水レベル3（異常渇水①）	貯水率 30%～20%程度 貯水位 EL. 368. 5m未満	取水量 ２０%節水 玉川ダム 30% 田沢湖 70% 玉川ダム／田沢湖	異常渇水レベルでの施設運用 ◆ 取水・配水施設の整備・点検 ◆ ダムの貯水率や河川流量の情報確認 ◆ 番水取水の実施 ◆ 用水路間の流量調整等の流水管理の強化	異常渇水レベルでの施設運用 ◆ 取水・送配水施設の整備・点検 ◆ ダムの貯水率や河川流量の情報確認 ◆ 使用者への更なる節水啓発や節水依頼 ◆ バルブ調整や水圧調整による節水開始	異常渇水レベルでの施設運用 ◆ 発電に係る設備の整備・点検 ◆ ダム等の貯水率の情報発信や確認 ◆ 渇水対策のための運転調整	節水・自治体からの情報確認 ◆ 自治体から発信された広報の確認及び内容の実施 ◆ 一般家庭・事業所での節水の強化 ◆ 断水に向けた準備
渇水レベル4（異常渇水②）	貯水率 20%以下 貯水位 EL. 364. 4m未満	取水量 ２０%節水 ＋ 更なる対応 玉川ダム 30% 田沢湖 70% 玉川ダム／田沢湖	異常渇水レベルでの施設運用 ◆ 取水・配水施設の整備・点検 ◆ ダムの貯水率や河川流量の情報確認 ◆ 取水障害への対応（ポンプ等での取水） ◆ 地下水の利用（地下水くみ上げによる対応） ◆ 利用者間での水融通	異常渇水レベルでの施設運用 ◆ 取水・送配水施設の整備・点検 ◆ ダムの貯水率や河川流量の情報確認 ◆ 使用者への更なる節水依頼 ◆ バルブ調整や水圧調整による節水 ◆ 利用者間での水融通 ◆ 代替水源確保の検討・調整	異常渇水レベルでの施設運用 ◆ 発電に係る設備の整備・点検 ◆ ダム等の貯水率の情報発信や確認 ◆ 運転調整や停止	節水・自治体からの情報確認 ◆ 自治体から発信された広報の確認及び内容の実施 ◆ 最低限の水利用 ◆ 広域的な暖水時の対応 ◆ 渇水弱者の自主避難（公民館等へ）

※　本タイムラインは渇水時の行動の目安とするため、過去の渇水対応を参考に作成したものであり、実際の対応は気象や水利用の状況により変わることがあります。

④ 令和7年　下流補給実績

令和7年渇水における玉川ダムの効果

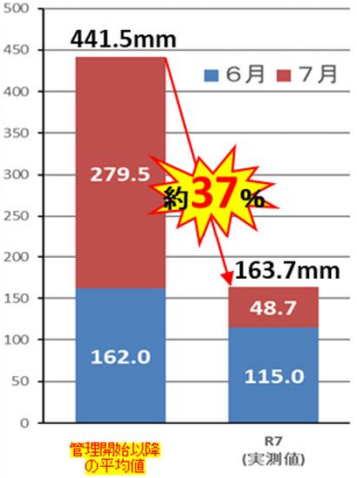
◆玉川ダム流域の6～7月降水量は、H3（1992）年の管理開始以降の平均※1に対して約37％と少なく、特に7月は同管理開始以降の最少値となる48.7mm/月（平均に対して約17％）を記録した。
◆少雨の影響により、8月6日には、今期最低の貯水率39．9％（過去5ヶ年の6割程度）まで低下した。
◆このペースで貯水率が低下した場合8月中旬には貯水率がゼロになることが想定されたため、玉川ダムでは「雄物川水系渇水対応タイムライン（R3.6月策定）」に基づき関係機関と調整を行い玉川水系ダム群（玉川ダム・鎧畑ダム・田沢湖）で連携操作を実施。
◆玉川ダムでは7月から8月で総量約96百万立方メートル（東京ドーム約77杯分）の利水補給を実施し、渇水に対応した。

※1管理開始以降32ヶ年（H3～R6）の玉川ダム流域降雨量（6～7月）の平均

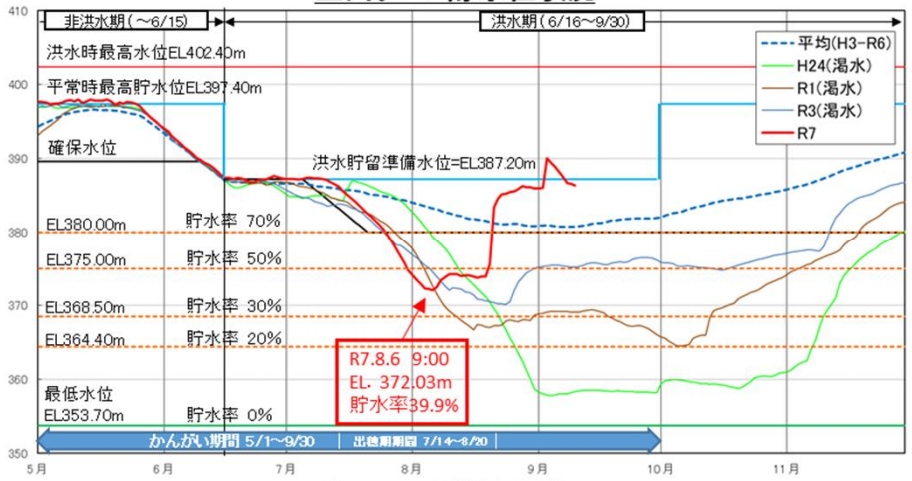
玉川ダムからの用水補給区域



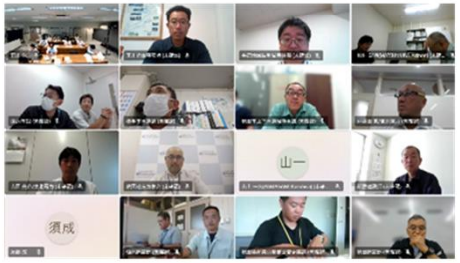
玉川ダム流域降雨量（6～7月）



玉川ダム　貯水位状況

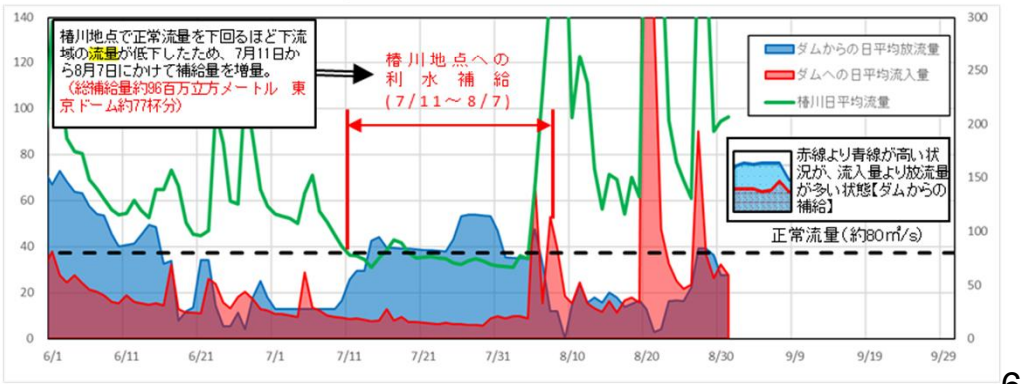






玉川水系ダム群水位運用連絡調整会議及び田沢湖運用会議開催状況

玉川ダム　下流補給実績

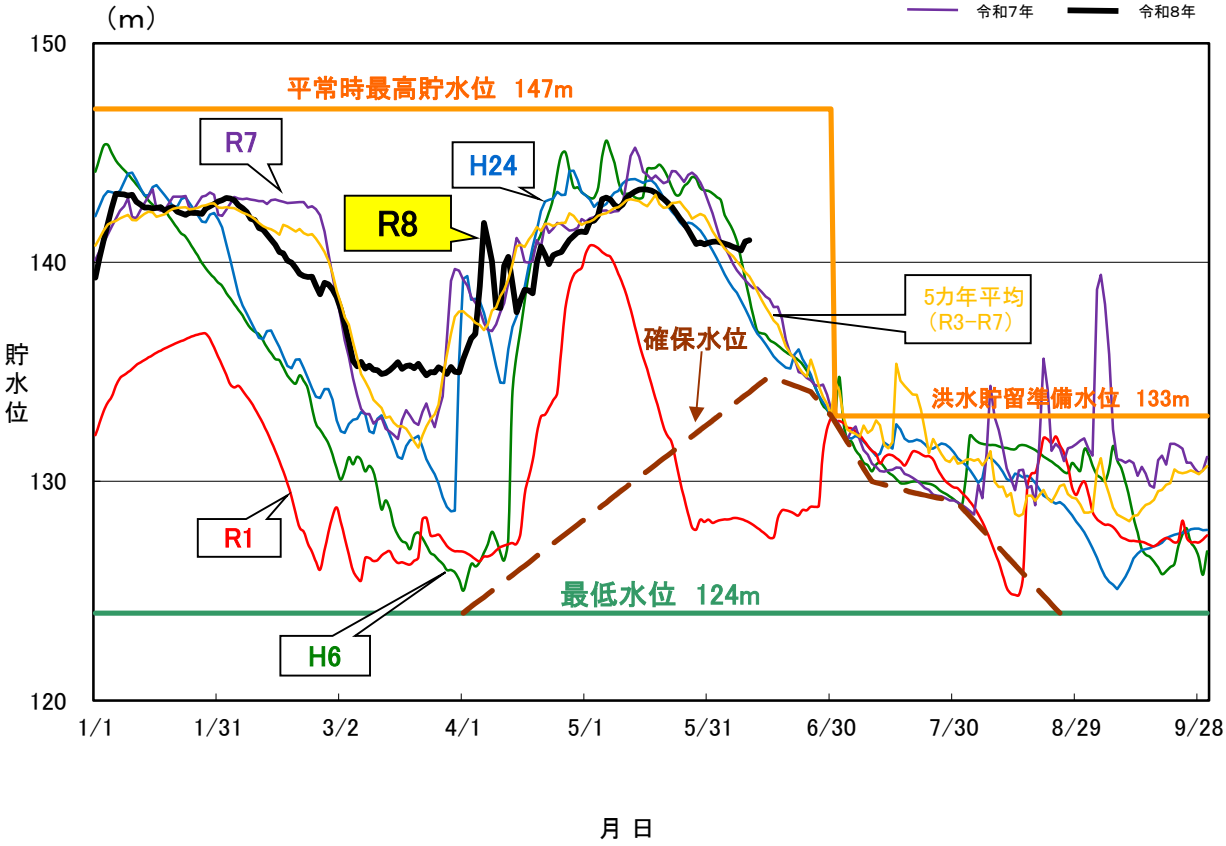


注）本資料に記載された数値は令和7年9月10日現在の速報値であり、今後変更される場合があります。

項　　目	容　　量	目的
有効貯水容量	16,000 千m3	－
利水容量（洪水期）	3,500 千m3	N

岩見ダム貯水位

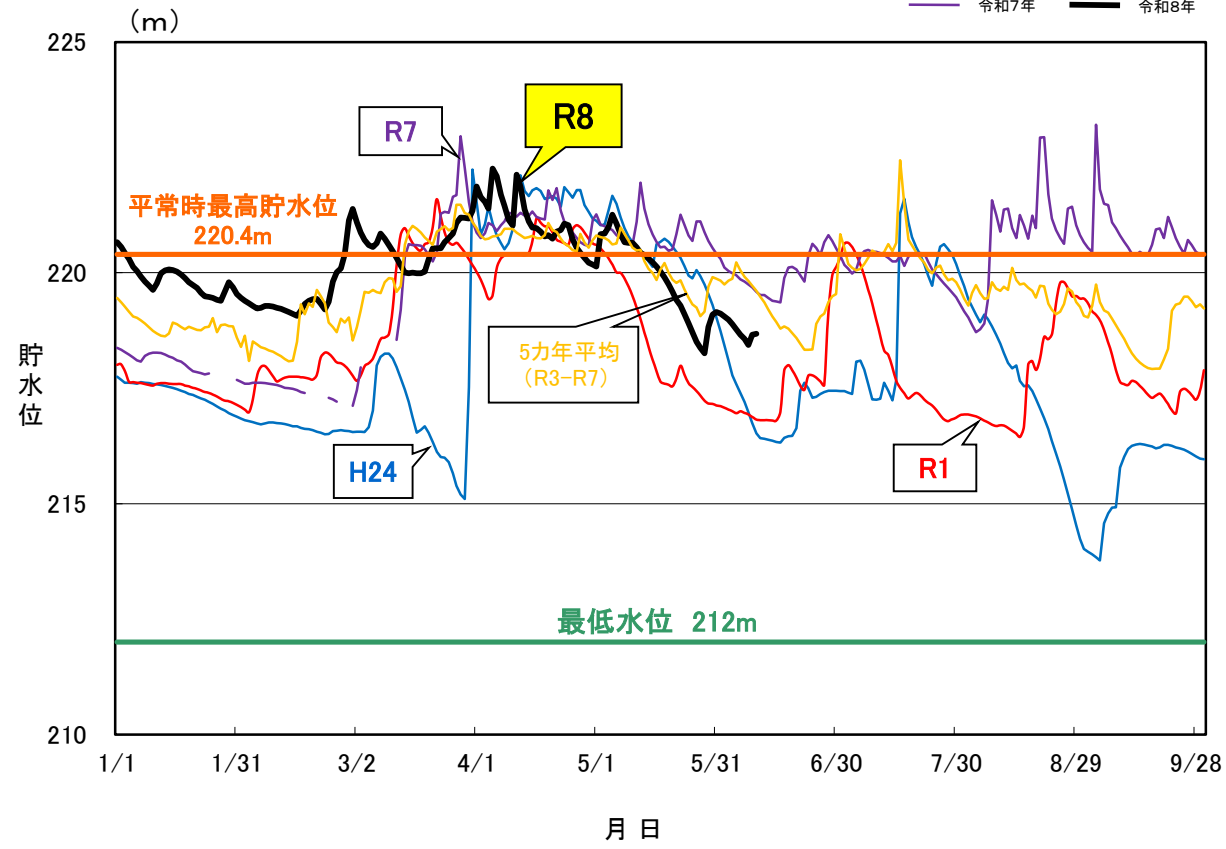
※ H6、H24、R1、R7は、代表的な渇水年



項　　目	容　　量	目的
有効貯水容量	7,050 千m3	－
利水容量	1,550 千m3	N･W

協和ダム貯水位

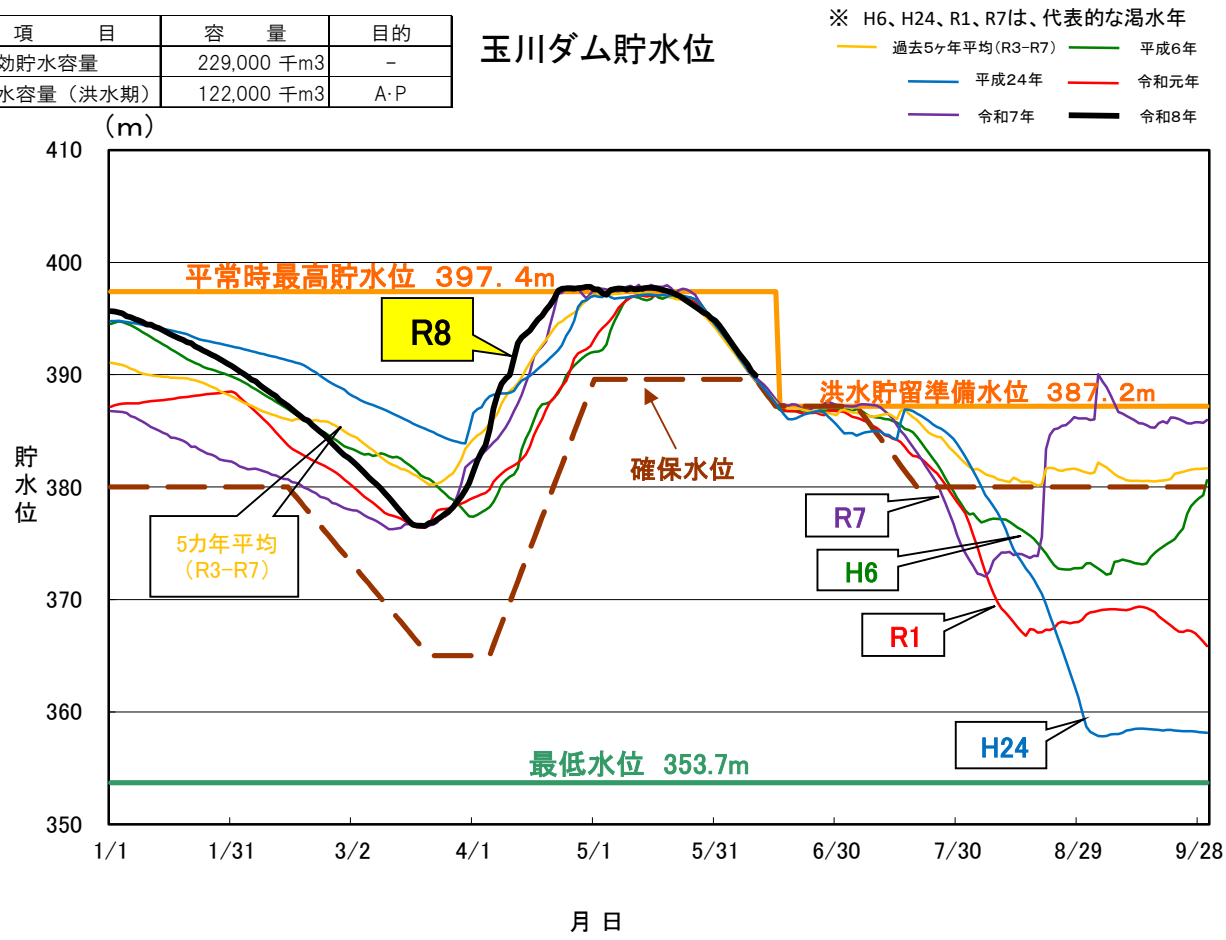
※ H24、R1、R7は、代表的な渇水年



項　　目	容　　量	目的
有効貯水容量	229,000 千m3	－
利水容量（洪水期）	122,000 千m3	A･P

玉川ダム貯水位

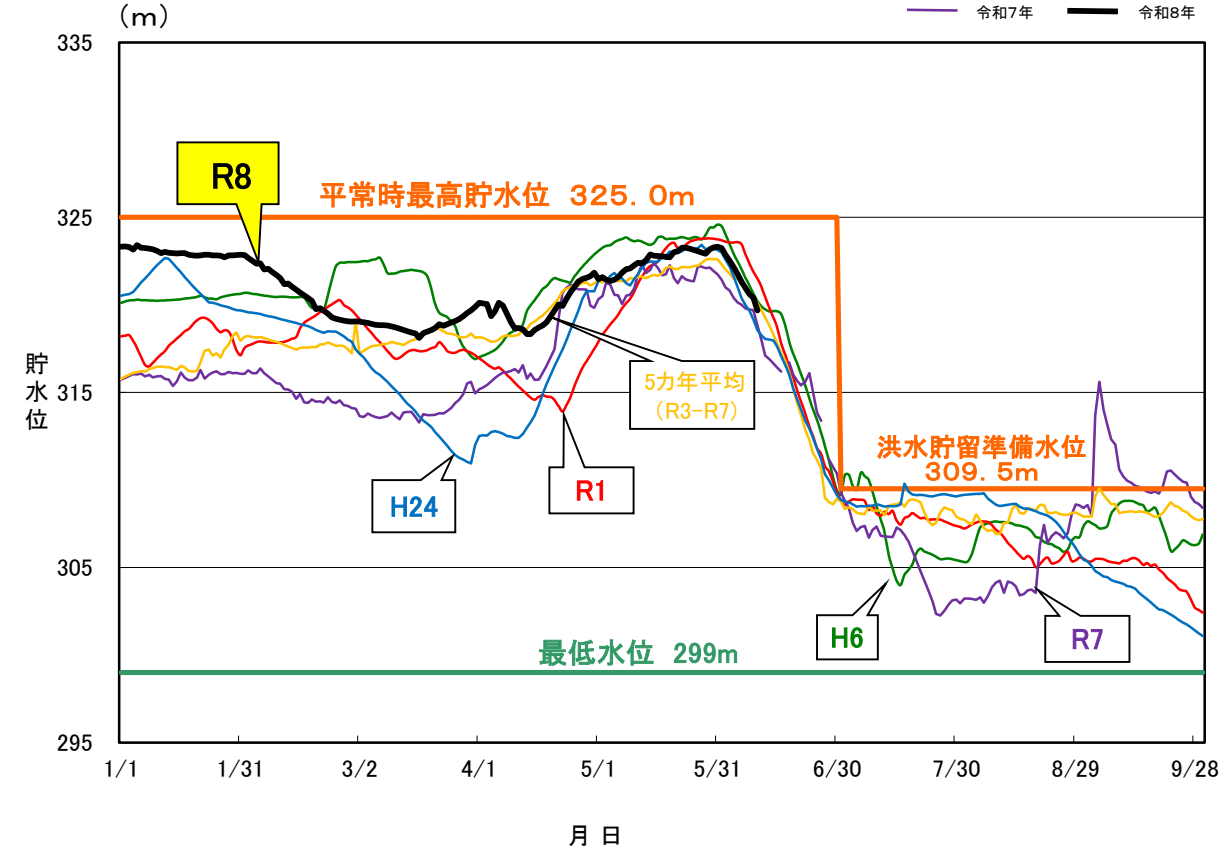
※ H6、H24、R1、R7は、代表的な渇水年



項　　目	容　　量	目的
有効貯水容量	43,000 千m3	－
利水容量（洪水期）	11,000 千m3	N･A･W

鎧畑ダム貯水位

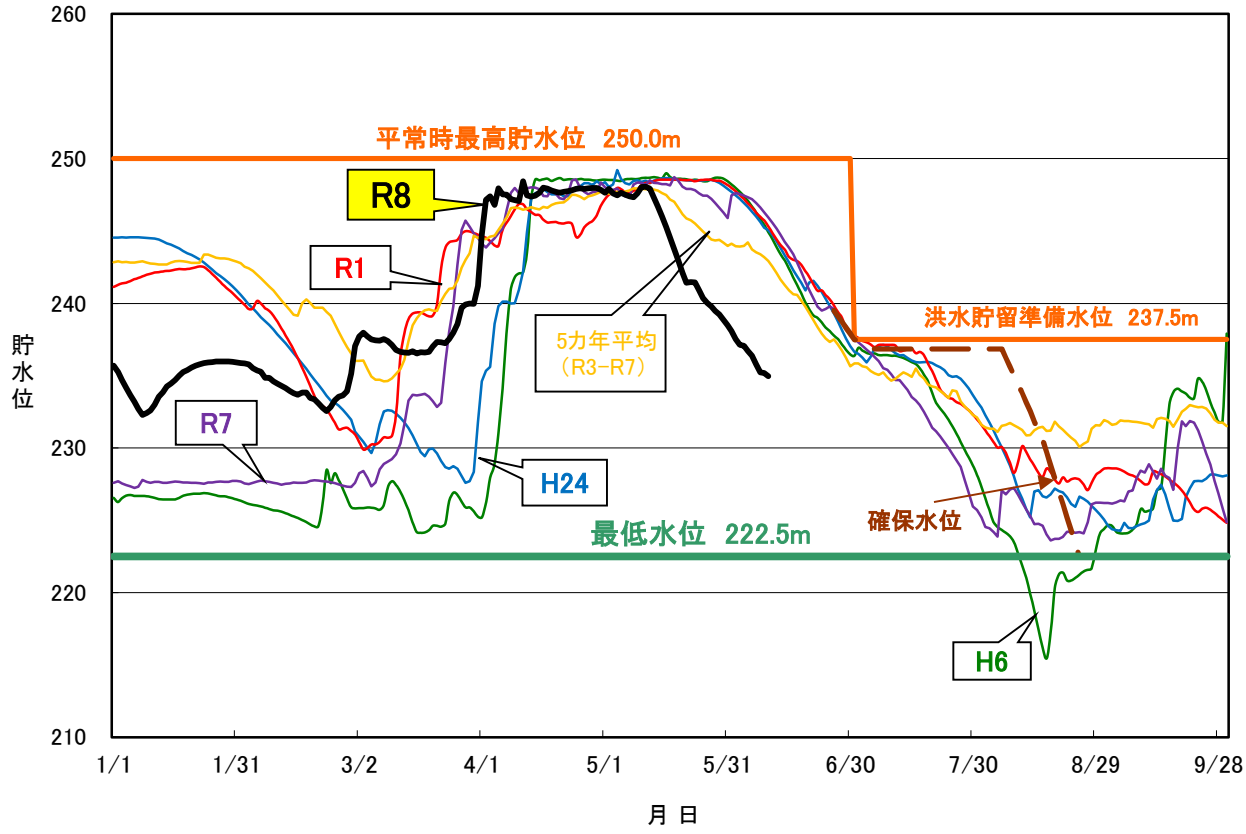
※ H6、H24、R1、R7は、代表的な渇水年



項　　目	容　　量	目的
有効貯水容量	26,300 千m3	－
利水容量（洪水期）	10,100 千m3	A･P

皆瀬ダム貯水位

※　H6、H24、R1、R7は、代表的な渇水年



項　　目	容　　量	目的
有効貯水容量	11,000 千m3	－
利水容量（洪水期）	4,700 千m3	N･A･W

大松川ダム貯水位

※　H24、R1、R7は、代表的な渇水年

